

令和2年度 一人一人の確かな学力のために

4年

		学年の目標	2学期中間の児童の様子	3学期末の児童の様子
基礎・基本	国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学期末、学年末のテストで90点以上を合格として、9割以上の児童が合格できることを目指します。 文章を正確に読み取る力を高めることができるように、サイドラインをキーワードになる言葉に引き、考えながら読むことができる児童を目指します。 主語や述語の関係をはっきりさせ、分かりやすい文章表現ができる児童を目指します。そのために、一度書いた文章を読み直し、句読点や主語の漏れが無いかなを確認する習慣を身に付けさせます。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字ミニテストを定期的にも実施し、平均点は約70点でした。一学期末の漢字50問テストでも同じく平均点が約70点前後でした。 必要な事柄においてサイドラインを引くなどして落とすことなく読み取るようになる児童が増えました。しかし、正しい意味を理解して読み取ることを全員ができていないので、意味が分からない言葉は国語辞典を使って調べてたり、文の前後の言葉に着目したりして正しく文を理解できるようにします。 文章で表現する際に、主語・述語の関係が成り立っている児童は増えてきましたが、誤字脱字や既習の漢字を平仮名で書く児童が4割程度います。今後は、自分で書いた文章を読み返したり、国語辞典や漢字辞典を使って既習漢字を調べたりすることを指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に1回程度実施した漢字ミニテストでは、3学期は平均点が76点でした。1学期、2学期の自分のミスを振り返り、改善しようとする児童が増えました。2学期末の50問テストの平均点は約80点でした。学年末テストを2月22日の週以降に実施し、平均90点以上の点数を目指します。 教科書や資料の中で、分からない言葉を国語辞典で意味を調べる児童が3割程度になりました。文章中の言葉の読み違いをする児童も3割程度いるので、助詞や副詞に気を付けるように指導を続けていきます。 文章や作品を作ることに意欲的に取り組んでいます。読み合ったり、読み直したりして修正することができるようになってきました。しかし、既習漢字の活用には努力が必要な児童が3割程度いますが、国語辞典や漢字辞典を使って漢字を調べられるようになりました。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算ドリルをくり返し活用して、既習事項の定着を図ります。必ず答え合わせを行って、間違いを直す習慣を付けられるようにします。 単元のテスト直しを実施し、必ず内容が理解できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の授業での宿題を必ず提出できた児童が、学年全体で9割になりました。しかし、間違えた問題の解き直しを必ず行う児童は、5割程度でした。全員が確実にできるように今後も指導を続けます。 単元のテスト直しを行い、理解を確実にするように、間違えた理由を考えさせました。また、定期的に既習事項のふり返しを行い、内容を確実に理解できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の授業での宿題を必ず提出できた児童は、最終的に9割程度でした。しかし、間違えた問題の解き直しを必ず行う児童は、6割程度と少し増加しました。コースによって差がありますが、今年度中に提出率10割を目指し、解き直しする習慣が身に付くように指導を続けます。 単元のテスト直しをしながら間違えた理由を書いて、解き直しをする児童が4割程度になりました。少しずつ習慣化されてきたように感じます。他の教科でも取り組めるように指導していきます。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館を活用して、週1回程度図書貸し出しを行い、読書に慣れ親しませます。普段から、すぐに本を取り出し活用することができるようマイブックを用意します。また、「読書ちよきん箱」に読んだページ数を記録させ、全員が年間7000ページを達成できるようにします。 読書科や国語科で習得したスキルを活用し、資料から抜き出したり、要約したりする活動を通して、読み手を意識した作品作りができるように指導します。 タイピングソフトを活用し、全員の児童がキーボードによるローマ字入力ができるようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> マイブックを準備し、自ら読書活動を行う児童が増えました。6月末で1500ページ以上本を読んでいる児童が6割程度います。 作品作りでは、ポスター形式で読み手の興味をひくようにタイトルを工夫して作品を作ることができてきました。新聞では見出しを工夫するなど、今後も読み手を意識して作ることを意識させていきます。 タイピングソフトを使い、ローマ字入力の練習を繰り返し行っています。ソフトキーボードを使わずに入力できるように、今後も指導を続けていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の時間は、静かに読書に親しんだり、読書科の活動を行ったりしてきました。年間7000ページの目標に到達した児童は約7割ですが、あと少しの児童もいます。 作品作りでは、読み手を意識して作品を作ることの大切さについて理解してきました。学んだことを生かし、国語や総合などにも生かすことができるようになりました。 練習を繰り返し、ローマ字入力で検索したり、作品に必要な資料を収集したりできるようにになりました。また、ローマ字を確実に理解できていない児童が2割程度いるので、今年度中に読んだり書いたりできるように指導します。
思考力・判断力	表現力	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に対して、予想を立てて追求していく学習方法が身に付けられるよう、学習のめあてや課題をもち、ふり返るという活動を継続的に行います。また、考えたことを自分の言葉で書いて表現することを積み重ねます。 自分の考えをもち、友達に伝え合うことができる児童を目指します。そのために、クラス内や小グループでの話し合い活動をフェイスシールドを着用しながら行い、自分の考えたことを伝え合ったり、友達の意見との違いを考えたりできるように指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の初めにめあてや学習課題をノートに書いたことで、児童の半数程度が学習の見通しがもてるようになってきました。また、学習内容を振り返ることができた児童は約6割です。今後は児童が学習内容をしっかりと理解し、全員が振り返ることができるようにします。 様々な教科で、短時間ですが自分の考えを伝える活動を行いました。伝え合いのなかで、新しく考えを学んだ児童は、ノートに友達の考えとして追記していました。換気をしながら短時間で行うなど、コロナ感染予防に配慮しながら伝え合う活動を取り入れていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてや課題に対して、予想や仮説をもち学習に取り組む児童は8割ほどです。振り返る際に学習について具体的に考えを書ける児童も7割ほどになってきました。引き続き指導していきます。 小グループでの活動では、自分の考えを積極的に伝え合う姿が多く見られ、意見を伝えることができる児童は7割ほどになりました。国語の学習では、フェイスシールドを使って話し合いながら表・写真などを使って上手に発表し合うことができました。
	学習習慣	<ul style="list-style-type: none"> 話すこと、聞くことの大切さを意識化させるために、聞いている人の方を向いて話すこと、相手の話を受けて話すこと、話している人の方を向いて聞いたりメモを取りながら聞いたりすることを指導していきます。 家庭学習を60分(15分×学年)取り組むことを目指します。そのために、自主学習を行う機会を設定し、よく取り組んでいる児童のノートを紹介したり、「鹿骨東小家庭学習のきまり」を参考にしたりして、自分の課題に合った学習に取り組めるように段階的に指導していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞くときに、話している人の方を向いて聞ける児童も7割程度です。引き続き指導していきます。メモを取りながら聞く学習では、友達の発表を聞きながらメモを取る活動をくり返し行い、少しずつ要点を落とさずに聞けるようになってきています。 宿題の他に、毎日必ず自主学習に取り組んでいる児童が1割程度います。その児童の取り組み内容を紹介して、自分に合った課題の見つけ方や学習内容のレパートリーを増やしていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の際に相手を見て話を聞くことができる児童は8割程度になりました。話を聞くときの姿勢も良くなってきましたが、引き続き指導します。 宿題の提出率は70%程度でした。提出状況を確認したり、本人に伝えたりして少しずつ向上しました。自主学習は、自分で決めた学習量で継続して行う児童が増えました。自分の苦手な箇所をノートにまとめ、理解を確実にしようと努力したり、オンライン教材を使用したりする児童が増えました。